

講師名 渡辺博史

#### 学生のベスト・コメント



[回答 5]国際的な取引、経営をしていく上で、関わる国によって法律が異なるため、複雑になっていくなあと感じました。アジア経済の成長が日本の経済において重要だと改めて感じました。

[回答 25]アジアが近年、勢いに乗っていると言われているが、今回の講義で貧困や労働といった数々の問題が残されているまま、隅々の人まで還元されない表面的な発展を行っている事を目の当たりしたような気がしました。

#### 講師からのコメント

いい意味でも悪い意味でも「グローバル化」が進む中で、日本の企業も個人も世界との繋がりがより深まっていくことは、不可避というか自然ですが、その「世界」の中でも、引き続きアジアが相当のウエイトを占めると思います。

その意味で、アジアとの関わり合いを、主体的かつ積極的に進めることが求められます。日本人は、ごく自然に「日本はアジアに存する」と思っていますが、アジアの人から見れば、「日本はユーラシア大陸の北東縁辺部の島国に過ぎない」のであって、日本の側から常に「日本はアジアとどう生きるか、アジアに対して何をするか」を発信していく必要があります。アジアが経済的発展するだけでなく、品位あり快適な社会を形成していくために日本がどのような「貢献」をしていくかが、問われています。日本がアジアを「利用」して成長するという自己本位の姿勢だけでは、いつか齟齬をきたします。アジアに対して「安定的かつ信頼に足るパートナー」であることが不可欠です。

そのためには、産業面での「サプライ・チェーンの構築・維持」に努めるとともに、地域自体の制度・システムの調和に貢献していくことが必要になるでしょう。各国は、植民地の歴史、政治体制の変転などの理由から、様々なというかバラバラな制度を持っています。もちろん、制度自体は、優劣は有っても、「これでなければいけない」という絶対的基準がある訳ではありません(そういうことを言い張る大国もあります)

が・・)。そうは言っても、国境を接する(もちろん海をはさんで隣接する場合も含みます)国々の間での差異はなるべく小さくして行くことが、一定以上の規模を有する「市場」の形成のためには不可欠なことです。「調和」を高めるためにも、「協働」していくことが求められています。その際には、日本が「常に上位にある」という意識は捨てつつも、日本が「常に最先端に居る」と言えるだけの努力は必要です。これから形成される6億人以上と思われる多数の「中産階級」が当初求めるものは、「最新の高付加価値品」ではないかもしれませんが、この需要に応える「中付加価値品」を安価かつ大量に、更に安全・堅牢な品質で提供するためには、技術の高度化・開発が進まなければなりません。

今あるものを、「線型」に単純に伸ばすのではなく、まったく新しい分野と結びつけて大きく新展開をさせるためには、基礎的な科学力、技術力と一見遠く離れた分野との柔軟な連携が必要ですが、その展開でのリーダー的な役割を日本が果たす必要があります。金融の分野でも、様々なショックを経験する中で、いくつかの法規制、行政の指導・監督の提案がされていますが、最近では、日本の方針を再評価する声が高まっています。裁判制度も紛争解決には重要な機能を果たしますが、その分野での能力向上への支援も行っていく必要があります。

社会生活でも、より広範な中産階級の形成は、もちろん日本の生産品への需要を高めることにもなりますが、それぞれの国での「国内購買力」を増すことにより、輸出に過度に依存していて景気そのものが「外需」に振られやすくなっている経済構造を改めることにもなります。また、中産階級の健全な発展はその国の政治的安定にもつながります。経済発展の利益をより多くの国民が裨益することは「普通の」国民の生活の向上につながります。また、中国、インドといった大きな国だけに目を奪われるのではなく、中小国の水準向上にも目配りする、国際的な均衡の達成に貢献できる役割を果たせる国は、少なくともアジアでは日本しかいません。

また、「品位ある高齢化社会」のモデルを示すことは、中国・韓国のような似た環境にいる国々だけではなく、現在は「若年層」の厚さを享受している多くの新興国・途上国が将来に備えた制度設計を早期に開始するガイドラインを提示することにもなります(日本以外の多くのアジアの国々は、先進国と言われる生活環境、所得水準に達する前に「高齢化」が始まるという事実は重要かつ深刻で、早めの対応が喫緊なのです。)

そのような制度の改善、調和に向けて、協働して行くことが日本に、特に、若い皆さんに求められているのです。「内向き」にならずに、国内外を分けずに色々考え、かつ行動できる人になって頂きたい、と思います。

(補)

これまでの各講師が個別セクター、あるいは個社のケーススタディを扱われたので、それを一般化する形で、いわば「横断的」に説明したつもりでしたが、やや「抽象的」に過ぎたために、理解しにくかったようで、申し訳ありませんでした。

更に、授業の時間配分を誤り、拙い英語での説明部分が長くなってすみませんでした。でも、英語への要求は高まる一方で、大学での授業の多国語化は進行していないので、学外でもいくつかの場を捉えて耳に馴染むよう心がけて頂ければ、と思います。

以 上